

新公立病院改革プランの進捗状況及び 2021 年度以降の取組方針

病院名 白老町立国民健康保険病院

新公立病院改革プランの進捗状況	
	<p>○ プランの概要（地域医療構想関係）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域医療の確保と在宅医療の提供体制と合わせ、これまでの急性期から回復期及び終末期医療への転換が期待されている。 ・ 地域包括ケアシステムの構築に向けた取組として、さらなる在宅訪問診療の拡大と体制整備が重要課題である。
	<p>○ プランの進捗状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 改革プランに掲げる回復期医療への転換や保健・医療・福祉の3連携施策における予防医療の推進、在宅訪問診療の拡大と体制整備における基本的な考え方の下、「地域医療構想を踏まえた役割の明確化」を図るうえでの当院の果たすべき役割については、令和元年8月23日付け「白老町立国保病院改築の方向性」において、地域医療構想実現に向けて急性期病床の一部を地域包括ケア病床へ転換するなど、回復期患者の受入れ体制の充実を考える旨の町の医療政策姿勢に基づき、早期の機能転換等により地域での課題に対応するとともに経営改善への道筋を付けている状況にある。
2021 年度以降の取組方針	
	<p>○ 「診療圏域内の人口推移の状況」を踏まえた取組方針について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本町は、今後も人口減少が続くとともに、長寿命化が顕著な時代が到来するとの予測がされている。（2020.2月16,557人→2025年14,213人→2040年9,180人）しかしながら、75歳以上の減少は鈍化傾向にあり、90歳以上では2040年に人口数のピークを迎える見通しにある。 ・ 診療圏域内の東胆振医療圏においても人口減少が予測されているものの、中核市である苫小牧市の高齢者人口増加による絶対的高齢化も起因し、今後、回復期や慢性期患者の増加に伴う受入れに関する課題への対応が求められている。 ・ また、西胆振医療圏のうち近隣2市（登別・室蘭）にあっても人口減の見通しは変わらないが、医療需要にあっては2025年をピークに2040年まで現状程度と見込んでいる。 ・ 白老町立国保病院においては、75歳以上の後期高齢者の受診傾向が非常に高く、特に80歳以降、年齢が高くなるにつれて利用割合が高くなることから、2040年の人口構造の推計を踏まえると、この傾向は変わらないものと捉えている。 ・ さらに、本年4月24日に迫った民族共生象徴空間「ウポポイ」開設に伴い、来館者目標100万人への対応に向け、急患の受入体制確保に関し、国からも強く要請を受けているところであり、当院においても最寄りの医療機関として重要な役割にあると認識している。

	<ul style="list-style-type: none"> このような将来予測や地域実情などを総合的に勘案し、本町に必要な地域医療を提供していく当院のあり方として、地域医療連携室機能の強化を図るとともに、一般病床については一部、地域包括ケア病床への転換を図るなど、軽度急性期患者への対応のほか回復期患者の更なる受入れ体制の充実を図っていくものとする。 なお、町内唯一の医療機関併設型介護機能についても引き続き生かしていく必要があると考えており、2040年に向けて医療・介護福祉提供の一体的な提供を担っていくために、これらの医療・介護提供体制を確保し経営安定化に努めながら、病院改築を着実に進めていくものとする。
	<p>○ 「周辺の医療機関との役割分担の在り方」について</p> <ul style="list-style-type: none"> 上記取組み方針を踏まえ、患者の状態に応じて近隣の2次医療機関や専門病院への紹介や、術後の回復期受入れの役割を担っていく必要がある。 また、町民が身近な町内で専門医療を受けられるよう、今後も引き続き近隣医療機関からの医師派遣による医療連携を図っていく必要があるとの考えにある。